就学児サポート調査票

個別サポート加算Ⅰ（放課後等デイサービス）　　児童氏名　佐賀　花　　No.4

調査実施上の留意点	・調査対象の児童の状態は、適切な支援や環境が整っていない状況（例：保護者や慣れている支援者がいない状況、初めての場所等）を想定して判断する。 ・「できる時とできない時がある場合」は、「できない場合」に基づき判断する。

		A　支援不要	B　支援が必要な場合がある	C　常に支援が必要	具体的な状況を記入 「支援不要」の場合は記入不要
①コミュニケーション	他者に対する自分の意志の伝達に、どの程度の支援を必要としているか いずれかに○→		・慣れていない場面等では、口頭でのコミュニケーションが難しく配慮を必要とする ・特定の人（保護者など）としかコミュニケーションがとれない ・吃音がある等	・コミュニケーションツール等を用いても、自分の意思の伝達ができない。 ・重度の障がい等のため、自分の意思の伝達ができているかどうか判断ができない（オウム返しで返答し、意味が理解できていない場合等） ・行動でのみ自分の意思を伝えられる。（例：冷蔵庫の前に行く、他者の手を引いておもちゃを取らせる等）	家族など特定の人であればコミュニケーションがとれるが、それ以外の人とは難しい。
②説明の理解	他者からの説明の理解に、どの いずれかに○→		・簡単な口頭での説明であっても理解できないことが多く、説明に応じた行動ができないことが多い ・１つのことはできるが、同時に２つ以上のことを指示されると行動が困難になる ・コミュニケーションツールを用意することで、理解が促される ・ジェスチャーで補足すると理解が促進する等		状況 されない く、学校で ってスケ 受けてい
③大声・奇声を出す	日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか。 いずれかに○	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	具体的な状況
	具体例等		・時間帯と場所を選ばず周囲が驚いたり、他者が迷惑となるような大声や奇声を出す ・物などを使って周囲に不快な音を立てる等		
④異食行動	日常生活における行動上の危険性で、どの程度の支援を必要としているか いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※例：飲み込みはしないが口に含むことがある。）	C　常に支援が必要 （※例：物があると口に含み、飲み込んでしまう） □週1回以上　□ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	具体的な状況
	具体例等		・食べられないもの（例：石や砂、玩具類、腐った食べ物、地面に落ちて明らかに汚れている食べ物、酒類、洗剤類など）を口に入れたり、飲み込んだりする異食行動がある ・異食行動を未然に防止するため、異食しそうなものを周囲に置かないなど配慮が必要な場合等		
⑤多動・行動停止	日常生活において行動上、どの程度の支援（配慮の度合や頻度等）を必要としているか いずれかに○→	A　支援不要	B　支援が必要な場合がある （※時々あるいは部分的に支援 例：月に一回程度以上）	C　常に支援が必要 （通常または習慣化している　例：週１回程度以上） □週1回以上　✓ほぼ毎日（週５日以上） C を選択した場合、いずれかに☑	具体的な状況
	具体例等		・特定の物や人（対象が明確でない場合も含む。）に対する興味関心が強く、思うとおりにならないと多動になったり、その対象にこだわって動かなくなってしまう ○多動 ・周囲と協調できず、絶えず動いてしまう。またはマイペースに周囲と無関係に動いてしまう ・常時走り回る、１箇所に留まることが難しい ・絶えず喋っている　・体の一部を常時動かしている等 ○行動停止 ・本人の意思とは関係なく、次の行動に移ることが難しい等		学校でじっと座ることが難しく、たえず体を動かしているので椅子ではなくバランスボールに座っている

該当する支援度に○をしてください。

結果/特記事項に具体的な状況（必要な支援）を記入してください。
「支援不要」の場合は記入不要。